

## トピックス

## ゲーテの骨

奥羽大学歯学部生体構造学講座口腔組織学分野 中川 敏 浩

晩秋のとある夜のことでした。午後10時近くだったでしょうか、一人研究室で仕事をしていたところ電話が鳴りました。こんな夜に誰だろう思いながら受話器を持つと「突然お電話差し上げて申し訳ありません。フジテレビの番組、クイズ・ミリオネラのスタッフの者です…」と言う男性の声でした。最初はイタズラとかセールスの電話かと思って切ろうとしましたが、話を聞いてみると以下のようなことでした。「クイズ問題の作成にあたり、有名な人物と関連のある言葉を捜しており、その一つにゲーテ骨という単語が候補にあがった。そのためこれに関する情報を収集しており、上アゴと下アゴの間にある骨らしいがよくわからないため、大学に電話をして教えてもらうことにした。」というような内容でした。

ゲーテ骨はどこかで聞いたような覚えはありましたが、はっきりとしたことは知らないため断ろうとしたものの、相手からは、時間がなく少しでもいいから教えてほしいと何度も頼まれ、またテレビ…!?ということもあり、とりあえず調べてみることにしました。

ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ (Johann Wolfgang von Goethe, 1749年—1832年) はドイツを代表する詩人であり、作家、科学者、哲学者そして政治家としても活躍していたことが知られています。また、現代においてもその文学作品は広く研究されており、私も「若きウェルテルの悩み」は読んだ覚えがあります。一方、医学の分野においては比較解剖学に関する論文の発表など数々の業績も残しており、形態学の創始者とも呼ばれたりすることもあるようです。

ゲーテが発見したとされる顎間骨ですが、切歯骨といったほうがわかりやすいかもしれません。一般に霊長類を含む哺乳類の上顎では、切歯骨が独立し発達していますが、ヒト成人においてはみられず、上顎は一つの骨として認識されます。

ゲーテの時代では、動物と人間の違いの一つは、上顎の前方への張り出し、つまり顎間骨(切歯骨)の有無であるとされていました(ヒトとサル境界)。これに対しゲーテは「Dem Menschen wie den Tieren ist ein Zwischenknochen der oberen Kinnlade zuzuschreiben」(動物と同じく、ヒトにも顎間骨がみられること)という論文を発表したのです。しかし、当時の風潮から大きな反論を受けると予想したゲーテは詳細な比較解剖図も挿入し、「顎間骨がヒトにも存在しているという事実には、もはや疑いの余地があるまい。もっともヒトにおいては、顎間骨の境界のかなりの部分が癒着して、上顎骨とぴったりくっついてしまっているために、その境界をはっきりなぞってみることはほんの一部しかできない。」と記載。ゲーテは胎児や小児の頭蓋を観察・研究し、その確信に至ったとされています(なお、近年でも切歯骨を含む上顎骨の発生についてはその骨化点など不明な部分があります)。これが、顎間骨(切歯骨)がゲーテ骨ともいわれる所以であり、切歯窩はゲーテの穴、切歯縫合はゲーテ縫合などとゲーテにまつわる解剖用語は他にもいろいろあるようです。

テレビ局には、調べたことをFAXなどで伝えたりしましたが、その後さっぱり連絡はありません。担当者の名前や電話番号を書いたメモも今ではどこかに埋もれてしまいました。ゲーテ骨がある番組で出題されたのか、はたまた、お蔵入りとなってしまったのかについても私は知りません。

## 文 献

- 1) 飯田 収: 表紙説明, 耳展 26; 318-319 1983.
- 2) 形態学歴史年表: <http://www.cdb.riken.jp/japanese/table5.html>
- 3) Ten Cate: 第3章 頭部, 顔面と口腔の発生学, 口腔組織学 第5版; 57医歯薬出版 東京 2002.
- 4) 大山定一他訳: 年譜, 筑摩世界文学大系24 ゲーテ I 初版; 478-488 筑摩書房 東京 1999.